

# トマホーク配備2113億円

## 来年度軍事費

1.4兆円の大幅増狙う

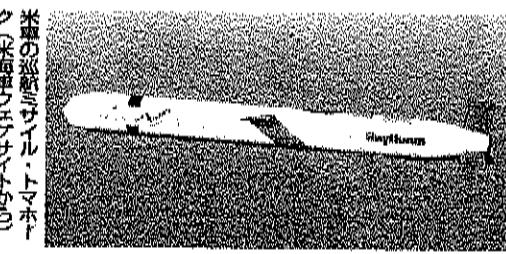
防衛省が2023年度予算案で、「敵基地攻撃能力」(反艦能力)として運用する米国製の長距離巡航ミサイル・トマホークの配備に向け、2~3億円を計上する事が分かった。岸田政権は16日の「国家安全保障戦略」など安保の文書の概要決定で、遠隔の敵基地攻撃能力の保有に踏み切りました。困難がサイルは開発の時間がかかるため、当面はトマホークが敵基地攻撃の主力兵器となり得られ、海上自衛隊イージス艦に搭載される方針です。

政府は今後、米国との武器交渉に入ります。

輸出制限である荷役軍事援助(FMS)に踏み切る額は過去最大となった22年入を進めるため、米側との年額を約一兆4000億円

上回り、約6兆8000億円前後とする方向で調整

していきます。政府は16日閣議決定した「防衛力整備計画」で、23年度から5年間の軍事費総額を、現行計画の1.5倍超の「4386億円」とする方針。来年度予算案から、異次元の大規模への着手を迫っています。



米軍の巡航ミサイル・トマホーク

(米海軍ウェブサイトから)

配備を進めます。島しょ防衛用高速機動の開発など、003億円、意義の大きさあります。陸上配備巡航ミサイル配備として2000億円

の研究開発費を充てて、ヨン」の代替となる「イー

ジス・システム搭載能

性



「沖縄を捨てて石にするな」と安保3文書反対の声をあげる人たち=19日、那覇市(記録)

を計上しました。  
四輪駆の「巡航能力」強  
難に対する「極超音速巡航弾」システム「マージス・アシ  
衛用高速機動の開発など  
の研究開発費を充てて、ヨン」の代替となる「イー  
化」即ち、無線説明機  
1000億円、ペタンド・オフ  
を盛り込んでいます。